



令和4年度三鷹市考古学講演会

およそ12万年前の推定海岸線  
三鷹市を中心として武蔵野台地および多摩丘陵を東方より俯瞰 国土地理院基盤地図情報を基図として、須貝俊彦他(2013)「過去40万年間の関東平野の地形発達史」及び遠藤邦彦の最新の知見を基に作成

講演会

# 三鷹 12 万年史

## 海と陸の変遷とヒトの暮らし

### ◆日時

### ◆講師

令和5年 1月 14日(土)  
午後1時30分～4時

遠藤 邦彦 氏 (日本大学名誉教授)  
小宮 雪晴 氏 (埼玉県蓮田市教育委員会)  
三鷹市スポーツと文化部生涯学習課職員

講演の後半で展示会のギャラリートークがあります

12万年前、三鷹には海がありました。  
地球規模の温暖化と寒冷化などの気候変遷と、それに連動する地形の変化によって、  
私たちが暮らす武蔵野台地は大きく変化してきました。  
ダイナミックに変化する環境を、ヒトは利用し、また環境にはたらきかけながら、  
暮らしを営んできました。  
海と陸の変遷を、最新のデータに基づき地形復元し、  
そこに住むヒトの歴史を考える講演会です。

会場：三鷹市公会堂さんさん館3階  
多目的会議室A・B  
定員：70名(事前申込制・先着順)  
入場無料

申込：三鷹市生涯学習課へ電話またはメールにて  
氏名・住所・電話番号・年齢をお伝えください  
TEL 0422-29-9867  
Mail shogai@city.mitaka.lg.jp

◆申込開始：令和4年12月19日(月)午前9時30分から



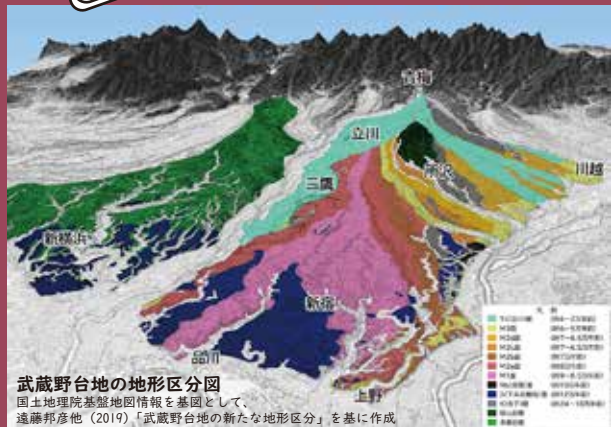
地域の特徴ある埋蔵文化財活用事業





展示会

# 三鷹12万年史



武蔵野台地の地形区分図  
国土地理院基盤地図情報を基図として、  
遠藤邦彦他(2019)「武蔵野台地の新たな地形区分」を基に作成



羽根沢台遺跡X層中部石器出土状況



縄文時代前期後半期の住居跡 井の頭池遺跡群A



3万4千年前の石斧 羽根沢台遺跡出土



縄文時代前期諸磯c式土器 中西遺跡出土

令和5年1月5日(木)  
～1月23日(月)

時間：平日のみ・午前9時～午後5時  
1月5日は午後1時～5時  
1月23日は午前9時～正午

会場：三鷹市役所1階市民ホール  
ギャラリートーク：1月12・19日(木)  
午後1時30分・午後2時30分  
申込不要・入場無料

## 展示会構成

- 1 三鷹に海があった頃 下末吉海進時(約12万年前)には、現在の三鷹市域の一部と、東京23区のほとんどには海が広がっていました。
- 2 日本列島に人類登場 南関東で最も古い出土例である三鷹市羽根沢台遺跡の石斧と日本最古の石器出土例(3万7千年前)を紹介します。
- 3 最終氷期最寒冷期の三鷹 最終氷期最寒冷期には、海面は今より100m以上も低く、東京湾には陸地が広がっていました。
- 4 縄文海進とヒトの暮らし 1万1千年前に始まる縄文海進期の詳細な地形変遷と、変化に対応したヒトの暮らしを考えます。
- 5 気候変動と私たちの暮らし 縄文時代以降の気候・地形変動と、そのメカニズムを解説し、将来の気候変動について考えます。



海と陸の変遷とヒトの暮らし





## 香坂山遺跡（長野県佐久市） 3万7千年前の石斧出土状況

写真提供 国武貞克氏（国立文化財機構 奈良文化財研究所）